

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		こども発達支援ルームぶらすup榊林ルーム			公表日：2025年3月13日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点・課題や改善すべき点
		環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		国の人員配置基準以上に職員を配置している。また機能訓練のニーズに対応できるよう、理学療法士や言語聴覚士等を常時配置し、より充実した療育を提供できるようにしている。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		室内でも伸び伸びと活動ができるようワンルームとなっている。障がい特性に合わせた空間を設けたり、個人のスケジュール表や声の大きさのさしなど、視覚化情報を増やすなど分かりやすさを工夫している。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		バリアフリーで広い室内で伸び伸びと活動できるよう、自立課題や教材、おもちゃの整理・整頓の徹底を行っている。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		障がい特性に合わせて過ごせるよう、パーテーションなどで区切っている。利用人数や限られた職員配置等によって使用できるエリアを制限しなくて良いようにさらに安全な配慮をしやすい環境設定を検討している。
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		職員の勤務時間により情報が偏らないよう、朝礼、昼礼、個別支援ミーティング等を行い、広く職員間で振り返りや療育のポイント等の確認を行っている。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		保護者からの希望にできる限り対応できるよう、改善に向けて職員間で協議している。またすぐに対応が難しい場合には、保護者と相談しながら、すり合わせを行っている。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		各職員との面談や個別支援会議、支援ミーティングの場を設け、意見交換を行いやすい環境を心がけている。また、良い意見については、すぐ改善できるよう取り入れている。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	福祉サービス第三者評価による評価は受けていないが、ぶらすupだより等の広報活動に力を入れたり、相談支援専門員や関係機関の来訪、ボランティア等の受け入れ等、風通しの良い環境となるよう心がけている。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		支援ミーティング等で、児童を支援していくうえで課題点や検討事項等の確認、OJTの実施や雇用形態を問わず全職員に対して社内外の研修に参加する機会を設けるなど、職員が自己研鑽しやすい環境を整えている。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		ガイドラインに沿って行事やプログラムを作成し、システム（HUG）にて月ごとに案内したり、ぶらすupだよりにて公開している。また、保護者や関係機関からの要望により、個別のプログラムも作成している。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		利用開始前の見学や体験時の様子も含めて、保護者から聞き取りを行ったうえで個別支援計画書を作成している。また、日々の行動観察を記録し、職員間で共有・協議しながら個別支援会議を行い、作成するようにしている。今後も引き続き、よりよい支援が出来るよう、アセスメント方法の検討をしていきたいと考えている。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		支援会議や毎日の昼礼時等に、職員間で支援の統一ができるよう、情報共有や行儀を行っている。今後は、さらに有意義な場となるように計画的に取り組んでいける仕組みや方法を検討していきたいと考えている。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		個別支援会議等で職員間で協議、共有し、計画書に基づいて支援を行っている。また定期的なモニタリングを通して、保護者等のニーズに変更がないかなど支援内容の確認を行い、適宜、変更等を行っている。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		アセスメントシート（児発用）を作成し、初回のアセスメント時に聞き取りを行っている。今後は、評価期間を設定し、発達状況や成長過程等のアセスメントも実施していきたいと考えている。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		ガイドラインに基づいて、保護者からのニーズ等をお聞きしたうえで、当事業所として提供できる支援内容やご本人に必要なと思われる支援等について、保護者等と相談を行い、計画を立てている。また必要に応じて関係機関等とも情報共有しながら支援内容を設定している。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		月1回程度、枠組みメンバーで会議を設け、話し合っ活動プログラムを設定している。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		ご本人の様子や発達状況等を確認しながら、保育士や児童指導員、理学療法士等、多職種の視点でいろいろな活動を提供している。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		施設的环境に慣れることから開始しており、児童指導員、保育士、機能訓練担当職員による評価を行い、個別活動や集団活動への振り分け等を考えている。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点・課題や改善すべき点
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		受け入れ当日の朝礼時には電話対応や送迎等もあり、関わる全職員と一緒に打ち合わせする時間が取れていないこともあるが、利用後に振り返り等を行い、次回の利用時に活かす支援の話し合いを行っている。今後は、当日の支援前にも確認できる工夫ができないか検討していきたいと考えている。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		勤務時間の関係でその日に全職員で振り返りを行っていないが、翌日の朝礼や昼礼時に支援の振り返りを行い、次回の利用時までには改善等の共有を行うことができている。今後は、当日の支援後にも確認できる工夫ができないか検討していきたいと考えている。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		児童の様子など気がかりな点等について、システム（HUG）への入力や朝礼等で振り返った内容を朝礼議事録等に記載するなど、職員間で共有している。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		少なくとも半年に1回以上のモニタリングを行い、計画を策定するために個別支援会議を開催し、計画の見直し等を行っている。またモニタリング以外でも必要に応じて、保護者等と面談を行い、ニーズに合わせて計画の変更がある場合には見直しを行っている。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		児童発達支援管理責任者と担当職員が出席することが出来るよう調整している。また会議内容に合わせて機能訓練担当職員も出席できる場合には、出来る限り出席している。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		サービス担当者会議等を中心に、必要に応じて保育園、保健師、障害福祉、医療機関等と情報共有し、連携することができている。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		移行する際には、相談支援事業所や保護者等と相談しながら情報提供書を作成し、提供したり、移行支援会議などに参加している。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。		○	R6年4月に開所したばかりで、利用児も低年齢のため、今年度は対象者はいないが、移行する場合には相談支援事業所や保護者等と相談しながら、情報共有や連携を図っていききたいと考えている。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。			
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。			
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。			
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○		今年度は、児童発達支援センターへの視察研修等を行っている。また市外の事業所の専門家に来ていただき、助言等をいただいている。今後は、自事業所の見学等に来ていただき、実際の支援の様子を見ながら助言等をいただくと良いと考えている。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○		地域にある公共施設を積極的に利用し、地域との交流の場を設けている。次年度は地域の保育園等への訪問や当事業所の放デイの児童たちなど幅広い年代の子ども達と交流を行う機会を設けられるよう検討していきたいと考えている。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		利用時に保護者に対して自宅で出来るリハビリ方法などを書面や口頭で、情報共有を行っている。またシステム（HUG）にて、毎日の療育内容について写真付きで報告している。
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		今年度は、保護者セミナーを企画し案内を行っている。次年度は、参加しやすいよう、保護者のニーズや就労の都合等も考慮し、事前に開催日時や内容についてのアンケートを実施し、検討していきたいと考えている。	
保	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		見学や契約時に保護者へ説明等を行っている。今後は、保護者から問い合わせがあった際に、全職員が説明できるよう、会議や研修等の場を利用し、少しずつOJTを進めていきたいと考えている。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		日々の支援の時間の中で、発語ができる児童へは、「今、何をしたいのか」「何が楽しいのか」などを聞いたり、電話やモニタリング等で保護者へ聞き取り等を行うなど、定期的に意向を確認している。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		支援開始前の聞き取りをもとに作成したものの説明や確認等を行い、同意を得ている。またモニタリング時には計画書を見ながら、今後の意向を確認し合っている。その後、支援ミーティングにて職員間で協議し、個別支援計画書の作成を行い、必要に応じて変更点等を修正し、最終確認していただき、署名をいただくようにしている。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		送迎時やモニタリング時、電話連絡等で適宜行っている。今後は、保護者セミナーの開催も検討していきたいと考えている。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点・課題や改善すべき点
保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		○	R6年4月に開設したばかりなので、今のところ保護者会等は設置していないが、今後、保護者同士やご家族で交流できる機会を提供できるよう検討していきたいと考えている。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		保護者からの相談、申入れがあった際には、その都度、時間を設けて対応している。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		ぶらすupだよりを作成・配布したり、システム（HUG）を通してその都度、情報を発信している。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報に記載された書類等については、鍵付きのキャビネットに保管するなど、取り扱いには十分注意している。またOJTや職員会議時に留意するよう周知している。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		児童の発達状況や保護者に合わせて、イラスト等を使って、わかりやすく説明するよう工夫したり、理解していただけたかなどの確認をしながら、意思疎通を図っている。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○	令和6年4月からスタートしており、利用状況等から児童発達支援としての行事を開催する機会を持っていない。放課後等デイサービスでは地域の方に協力をいただきながら、ハロウィンやクリスマスなどの行事を行っているため、児童発達支援でも実施できるよう検討していきたい。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		各マニュアルについては、施設内に設置しており、いつでも閲覧できるようになっている。職員には研修時に周知している。また契約時や保護者セミナーにおいて安全計画の説明を行っている。今後は、もっと保護者に対して分かりやすい形で情報を発信していく必要性を感じているため、システム（HUG）等を利用し、周知していくことを検討している。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		当法人として計画は作成しており、児童発達支援単独ではなく放デイとの多機能型として、職員に対しては行政等にご協力をいただき出前講座を活用しながら、災害教室や避難訓練などを毎月行っている。今後は、児童発達支援に特化した形で、児童と一緒に実施する形や消防署等への見学なども含めて検討していきたいと考えている。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		利用前に、保護者との面談にてアセスメントをとりながら聴取している。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		現在、アレルギーのある者はいないが、今後受け入れる場合は保護者と相談のうえ、担当の医師との連携を図れるように進めていく。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画は作成されており、計画に基づき、救急救命講習や防犯教室、避難訓練等を実施している。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		契約時、保護者研修の際に非常時の対応について説明を行っている。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリ・ハットな事例があった場合、報告書に記載し、朝礼、昼礼時や職員会議等を通して職員で共有している。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		新任者には、虐待や権利擁護に対する正しい知識を得て、児童と関わりをもてるよう、新任者研修内で虐待防止・権利擁護に関する知識を学ぶカリキュラムとしている。また虐待防止委員会を設置し、全職員が年1回以上、社内外の虐待防止・権利擁護に関する研修等を受講している。
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		現在、身体拘束を行う必要がある子どもの利用はないが、日々の関わりの中で、小さな出来事が身体拘束へと発展していかないよう、虐待防止研修等で学んだことを職員間で共有し、お互いに留意しながら支援している。もしやむを得ず身体拘束を行う必要性が出てきた場合には、身体拘束等適正化委員会等で十分に検討し、利用者本人の生命や身体を保護するための緊急を要する場合に、切迫性・非代替性・一時性であることを条件に行うことを職員の共通認識とし、計画に記載する必要があると考えている。	